

調査・研究の成果発表

蘇南高3年生 10グループ

蘇南高校伝統の「総合研究発表会」がこのほど、同校であった。3年生55人が10グループに分かれて1年間取り組みだ調査と研究の成果を披露した。簡易水力発電装置を作ったり、五平餅の販売体験で消費者心理を調べたり、外国人観光客の声を反映した英語の地図を作ったりと、意欲的な取

り組みがそろった。田口翔吾君、中澤朋奈さん、中村倅大君、松原牧志君のグループは、人口減少や空き家の増加など町の課題を見つけるドキュメンタリー映像作品を作った。

新しい縁が模索されている」と報告した。町に活気を生み人口を増やすためには「経済活性化や雇用も大切だけれど『面白さ』が必ずではないか」と指摘し「面白さは文化、交流、学びから生まれる」と投げ掛けた。

いずれの発表もパソコンで自作した図表やイラストをスクリーン

に映して分かりやすく伝え、来賓や保護者を感心させていた。
(高石雅也)



研究の成果を発表する生徒